校種：小学校　　対象学年：６年　　教科：特別の教科 道徳

「拉致問題」を自分の問題として考えよう！

**１　主題名　　家族のつながり（小学校Ｃ－１３　家族愛、家庭生活の充実）**

**２　教材名　　アニメ「めぐみ」（内閣官房拉致問題対策本部）**

**３　本時の目標**

|  |  |
| --- | --- |
| 知識的  側面 | ・アニメ「めぐみ」の視聴を通して、拉致問題について理解する。  ・他人事意識が人権問題の解決の妨げとなっていることに気付く。  ・重大な人権侵害であるが、あくまでも北朝鮮当局による犯行であり北朝鮮の一般市民や在日コリアンには何の罪も無いことを理解する。 |
| 価値的・  態度的  側面 | ・拉致被害者や家族の人たちの心の痛みや思いに共感する。  ・「人権問題は、自分には関係ない。」といった他人事意識が自分にもないかをふり返り、自らの問題ととらえ行動していこうとする態度を身に付ける。 |
| 技能的  側面 | ・拉致問題を風化させないために、自分たちにできることを考える。 |

**４　展開例**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 主な学習活動 | 予想される児童の反応 | 教師の支援・指導 |
| つかむ | １　ある日突然身近な人がいなくなったとしたら、自分はどんな気持ちになるかを考える。 | ・とても悲しい  ・どうしていいかわからなくなる  ・何も手につかなくなる | ○　様々な家庭の状況があることを踏まえて、家族ではなく自分がどう思うかを考えさせることで、決して他人事ではないことを理解させたい。  ○　実際に家族を亡くした児童がいる場合は、事前に活動を伝えておくなど十分な配慮をする。 |
| ２　アニメ「めぐみ」を視聴する。（約２５分） | ・めぐみさんはとてもかわいそう  ・こんなこと許されない  ・自分がこんなことされたらどうしよう…  ・何でこんなことするんだろう… | ○　事前にワークシートを配付し、後で話し合う場面を提示しておくことでビデオを視聴する際の視点を示す。  ○　実態に応じて、随時補足しながら視聴させる。  ○　あくまで北朝鮮当局の犯行で、北朝鮮の一般市民や在日コリアンには何の罪も無いことをしっかりと理解させる。 |
| 考える | ３　めぐみさんが行方不明になった時の両親の気持ちを考える。 | ・一体何があったの  ・どこに行ったの  ・生きていて欲しい  ・早く帰ってきて | ○　愛する我が子がある日突然いなくなった両親の悲痛な思いに気付かせる。 |
| ４　ご両親が街頭で救出を呼びかけている時、関心をもたないで通り過ぎる人たちの気持ちを考える。 | ・自分には関係ない  ・自分できることはない  ・どうしようもない  ・そんなことしても無駄だろう | ○　被害者や被害者家族の心の痛みに寄り添う人権感覚が問われていることを理解させる。 |
| ５　自分にもそうした他人事意識がないかをふり返る。 | ・自分も同じことをするかもしれない  ・自分がご両親の立場だったら、悲しいはずなのに…  ・自分に関係ないと思ったら、同じことをしていたかもしれない | ○　自分には関係ないといった意識が自分にもないかをふり返らせ、その他人事意識が人権問題の解決の妨げとなっていることに気付かせ、自らの問題ととらえ行動していくことの大切さを理解させたい。  ○　そうした厳しい状況でも決してあきらめない両親の姿に着目させ、被害者家族の必死な活動がやがて国や国民の心を動かしたことを理解させる。 |
| まとめる | ６　拉致問題解決のために、自分たちにできることを考える。 | ・関心をもつ  ・多くの人に知らせる  ・家族に知らせる | ○　拉致問題を風化させないために、自らの課題ととらえて自分にできることを考え行動することが必要であることを確認する。 |